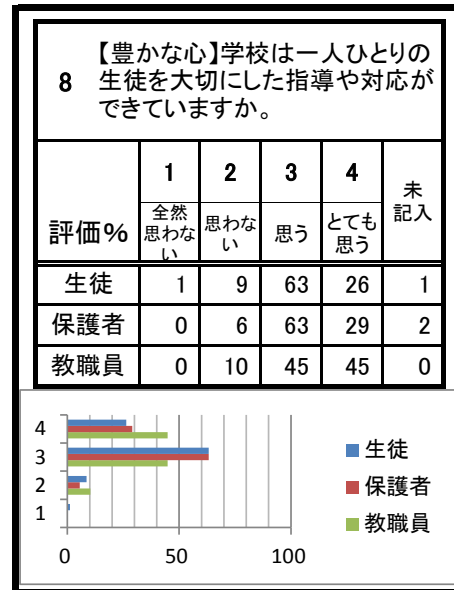
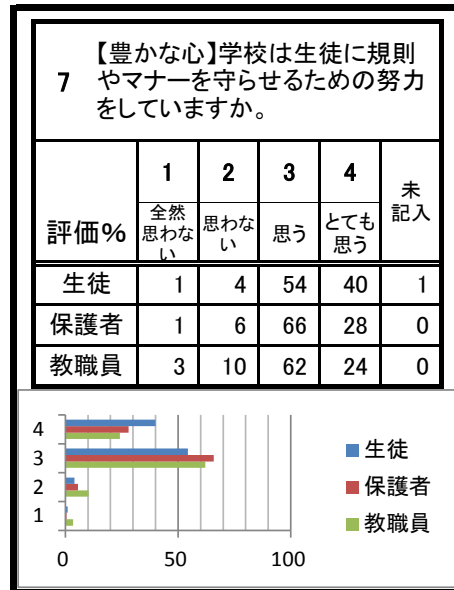
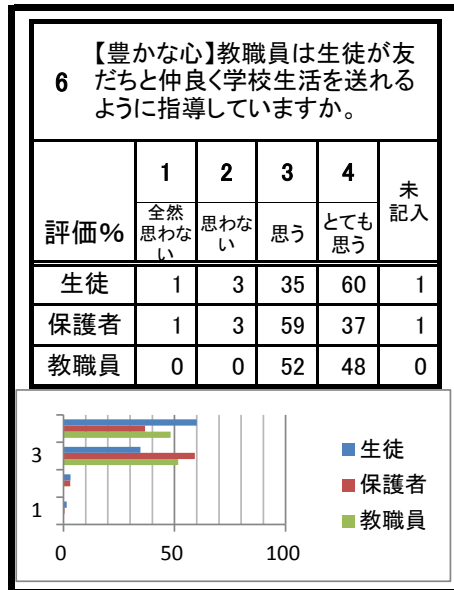
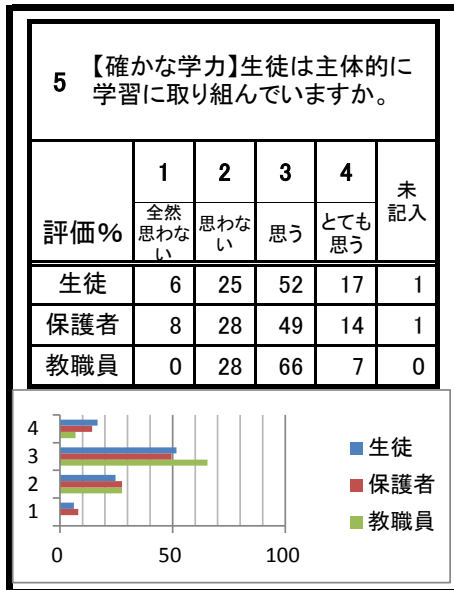
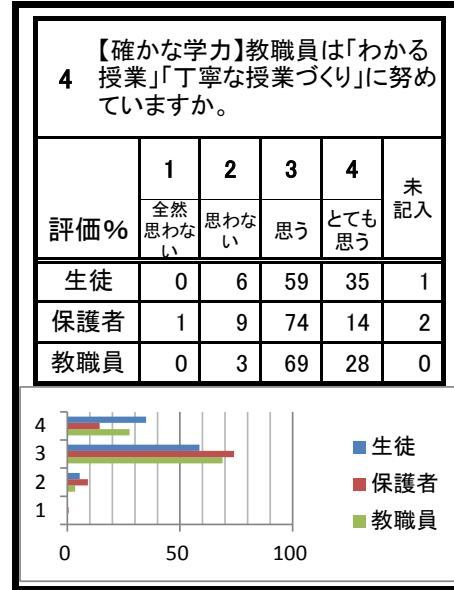
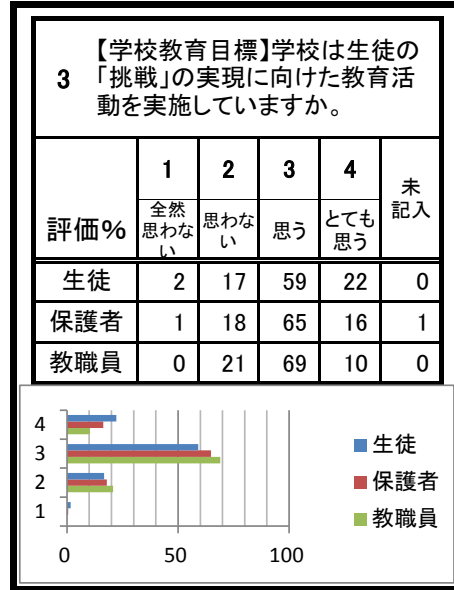
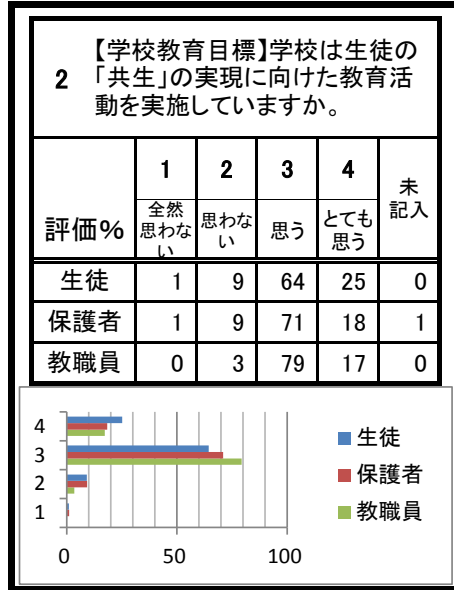
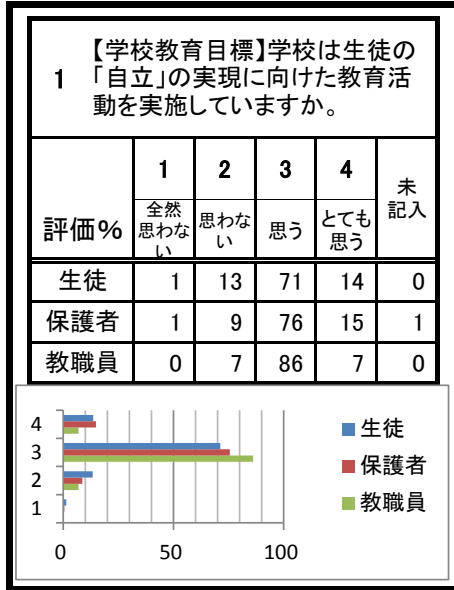
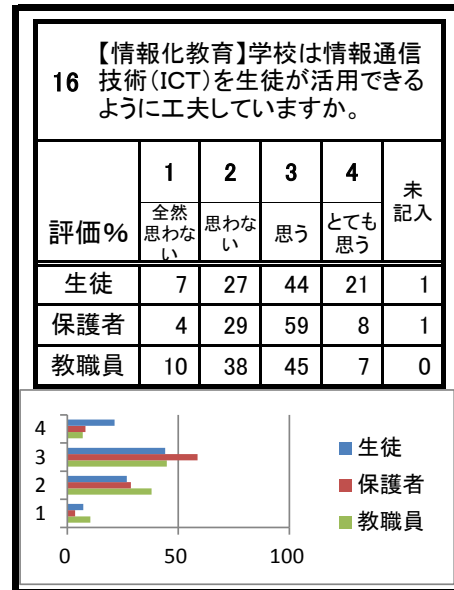
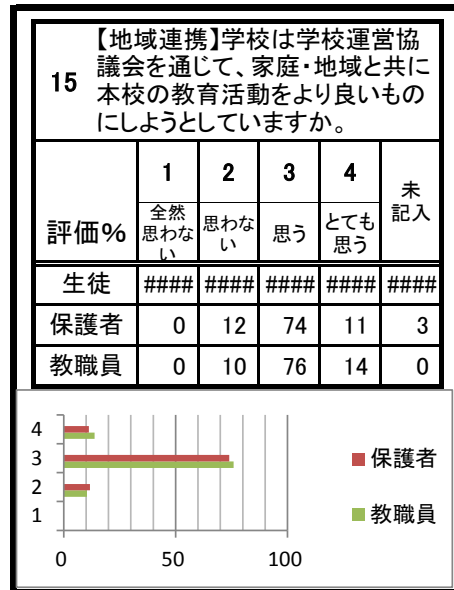
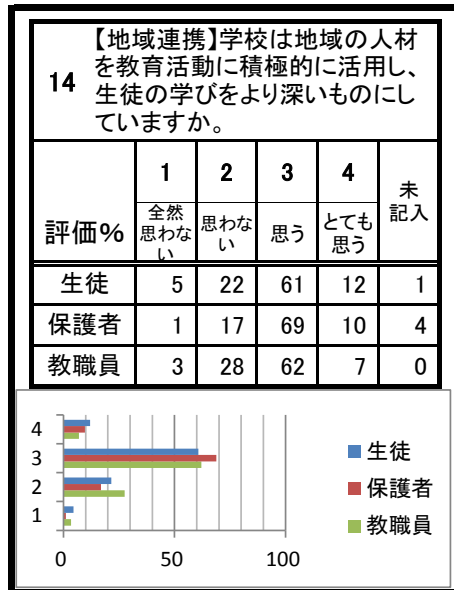
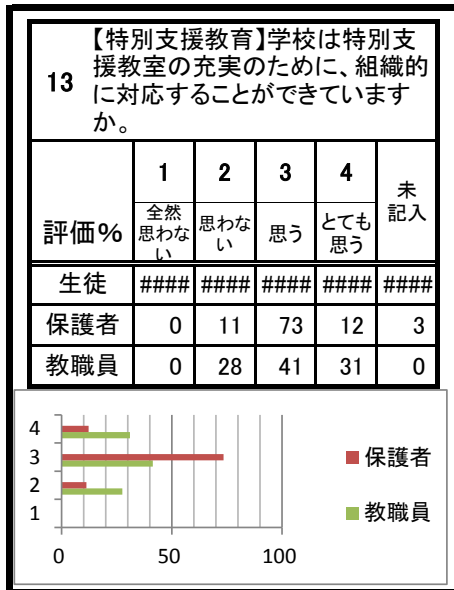
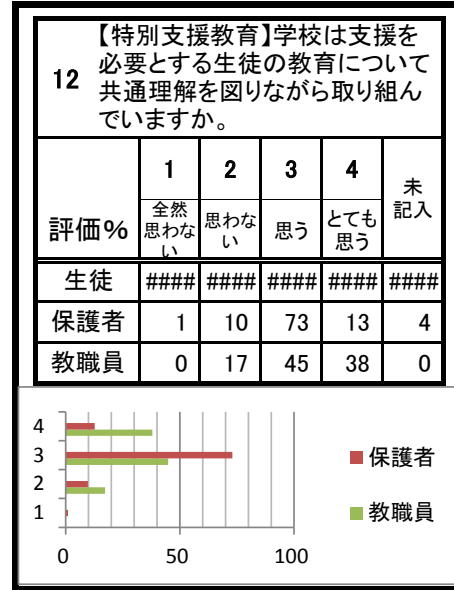
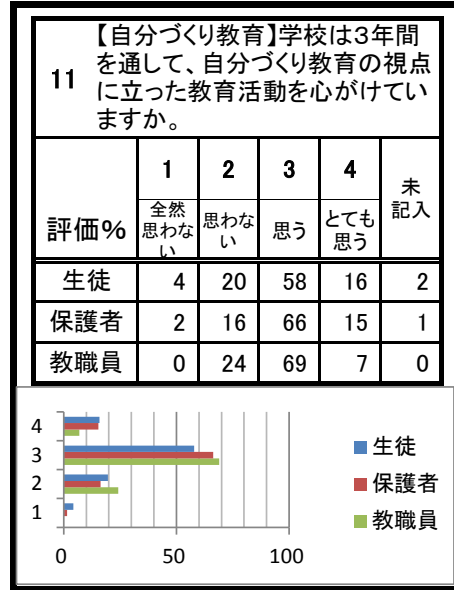
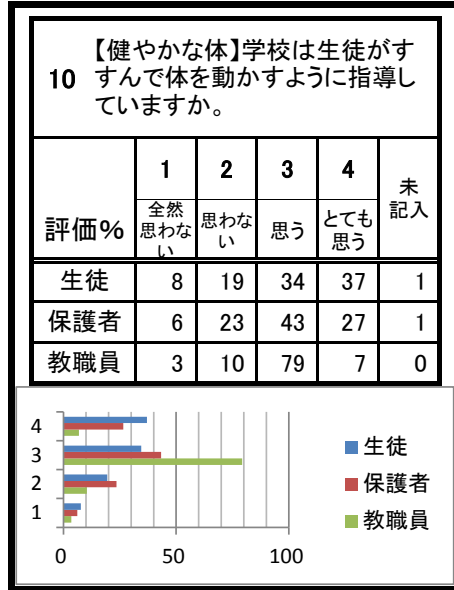
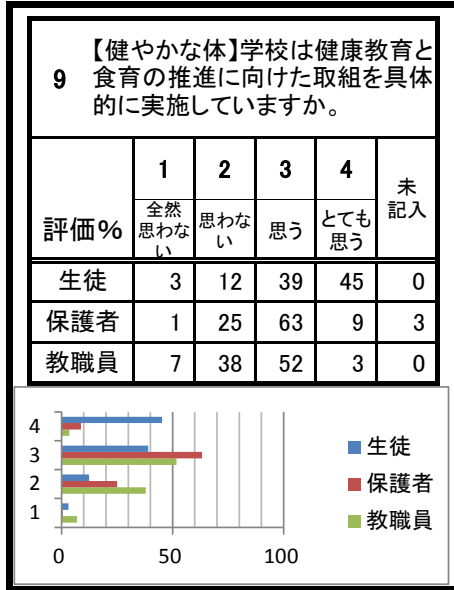


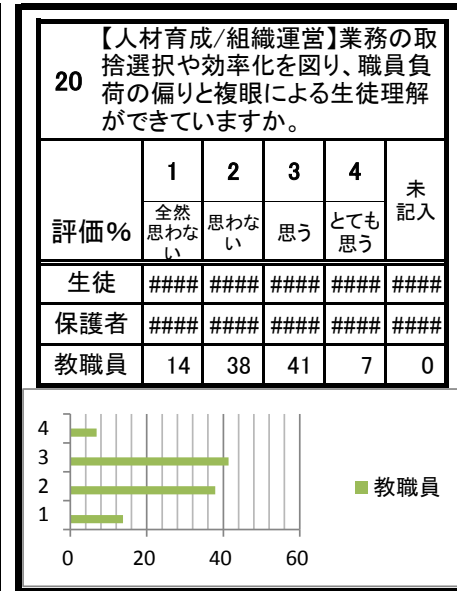
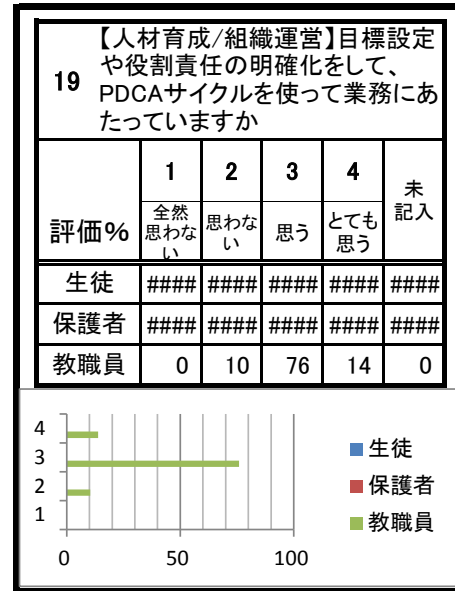
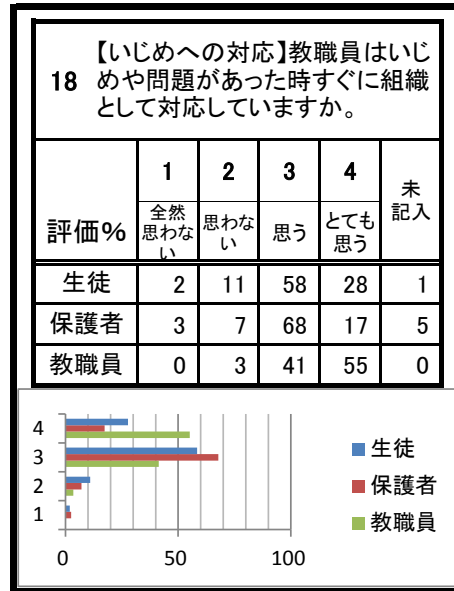
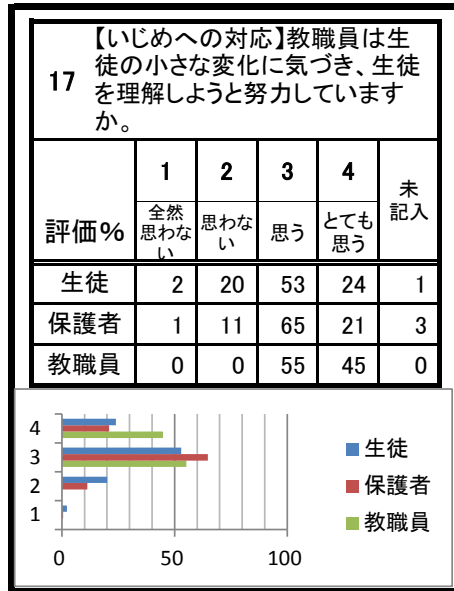
# 2020学校評価分析まとめ

令和3年2月22日  
教育課程委員会

No	評価項目	評価	結果と評価理由
1	確かな学力	B	授業中の様子からすると主体的に学んでいるという教員の高評価が見られる一方で、生徒が家庭において学習へ向かう姿勢が主体的ではないと受け止めている保護者が多いという結果がみられた。「主体的に学ぶ」にはどうするか、今後とも考えていく必要がある。また、「学校開く週間」及び「授業参観」等で地域・保護者への発信の大切さが明確になった。
2	豊かな心	B	今年度も全体的に評価は高かった。前回は教職員（高評価）と生徒・保護者（中・低評価）との間に差が見られたが、今回は改善している。しかし、依然として差はあるので次年度も課題としていきたい。道徳では全学年でローテーション授業を実施し多くの職員のみで豊かな心の育成を目指した。 前回の課題であったマナーや規則遵守の徹底についても改善されてはいるが、今後さらに教職員の共通理解を図り継続して取り組む。
3	健やかな体	A	感染症予防を徹底し、できることにしっかりと取り組むことができた。体育大会を半日開催にし、動線や内容を抜本的に見直した。マラソン大会の代替として授業内タイムトライアルを実施し、学年上位10位までを表彰した。課題としては、部活動の日数制限もあり体力づくりは難しかったと言える点、そして食育に関しては時間数の問題もあり年間を通して行うことは難しかった点である。
4	自分づくり教育	B	今年度の限られた条件の中で、比較的良い活動ができた。しかし、昨年度末に引き続き、状況的な問題で外部と関わる活動ができなかった。結果、3年間を見通した計画を実行することが困難になっている。総合的な学習の時間は、教員側が意義を見出せない生徒の意識が変わらない。今回の結果を踏まえて、来年度はもう一度計画を立て直して、周知していきたい。
5	特別支援教育	B	特別支援教室の運用面で課題があった。学年の枠を越えた支援体制確立のため、教員に特別支援教室の担当時間が割り当てられているが、時間外対応や割り当ての偏りから、学年職員対応としての負担感が多くなってしまった。持続可能な体制づくりのためにも、来年度は開室時間を増やす、支援の方法を変えるなど全体的に見直す必要を感じている。
6	地域連携 学校運営協議会	A	今年度は限られた活動となったが、可能な限りで地域との連携を図った。発足2年目となる学校運営協議会は、3回は実際に顔をあわせて会を開催し、地域との関係性を維持できている。小中連携も感染症対策を講じながら、できる範囲で例年通り実施した。地域の人材を活用した「放課後学び場事業」にも挑戦しはじめた。生徒の基礎学力向上のために今後も改善しながら継続したい。また、地域連携の取組について情報発信をより積極的に行い、保護者への理解も深めたい。
7	情報化教育	B	今年度は教室に2in1PCを設置しなかったためか、生徒自身がICTを活用する機会が減少したことが評価につながっていると思われる。一方で、教職員はiPadを含め様々な場面で有効活用する機会が増えたことは評価できる。来年度はGIGAスクール構想（クロムブックの利用、ロイノートを利用したやりとり等含む）に伴い、教職員・生徒ともにより一層の習熟が必要となる。そのため、全教職員の早期理解が不可欠である。
8	いじめへの対応	B	生徒や保護者の評価と教職員の評価にズレがある。教職員が思っている以上に生徒・保護者の要望は高い。今後も、生徒の安全確認やトラブルの未然防止のためにフロア巡回や毎月の振り返りアンケートなどで生徒の様子を把握することを継続していく。さらに、いじめの未然防止に努め、迅速で適切な対応を行っていく。
9	人材育成 組織運営	B	指導主事を招いた授業研究や、定期的なメンターチーム研修の実施など、人材育成に取り組んだ。また、勤務時間外の留守番電話対応を実施し、業務時間の確保を試みた。しかし「業務が多く、生徒理解にかける時間と労力が確保できていない」「仕事量の偏りがある」と感じている教職員が多い。更なる業務改善の必要がある。







回答数 生徒418人分 / 保護者196人分 / 教職員29人分